

一緒にきれいになりました

私は、夜の世界で働いていた元「ギャバ嬢」です。華やかに見える世界の裏には過酷な現実もあって、7年ほど続けているうちに金銭感覚が狂ってしまったり、昼夜逆転の生活で心身に負担をかけたこと…。何より、日夜お酒を飲むため、肝臓を悪くしてしまったのは致命的でした。

決して健やかとは言えない状況を打破しようと、日中に働ける美容業界へ転身。長年、自分自身の美しさを意識してきたからこそ、興味のある分野で新たな一歩を踏み出してみようと思ったんです。

トータルビューティーサロンにて痩身・脱毛・フェイシャルを1年ほど経験した後、スリムライン青森へ。青森にはまだない痩身専門店という点にオンリーワンの魅力を感じて、入社しました。

このお店は、代表やスタッフのみんなが褒めて伸ばしてくれました。「そういうことがあったなら、次はこういう風に活かそう」とか、「でも第一に、ここまでは頑張ったよね」といった温かい言葉が飛び交っているんです。そのお陰で、仕事に対する意識もがらりと変わりました。

そういえば、小学校からの幼馴染にも「前より楽しそうだね!」と言ってもらえて。今、本当に自分に合っている職場で働けているのかもしれないですね。

ただ、転身後は最初から順風満帆だったわけではありません。夜の世界では接客を生業としてきましたが、実は人見知りで……。長年男性を相手に働いているうちに、女性との距離感がわからなくなってしまうんです。完全に盲点でした。

サロンにいらっしゃるお客様は女性の方ばかり。練習を重ねてエステの技術はうまくなっても、接客だけはどうにも不安が拭えない。そんなとき、上司が「応対する相手が、女性に変わっただけだよ! 大丈夫!」と声をかけてくれたんです。

「女性だから」という固定概念を手放し、心がフッと軽くなったのを覚えています。さらにその後、接客は「男女」の違いだけでなく、お客様一人ひとりによって応対が変わることも気づけたんです。

悩みを持っているお客様を美しさへの第一歩に導くには、コミュニケーションが最重要だと思っています。

いつも意識しているのは、お客様を肯定すること。否定して自分の意見をただ伝えるのではなく、お客様のお言葉をフォローしつつお伝えするようにしています。

たとえば、「炭水化物を一切食べず、糖質制限をしている」といったお客様がいらっしゃった場合、「ご自身でも自己管理できているんですね!」とお伝えします。ここでもし「炭水化物を一切食べないのは良くありませんよ」と否定の言葉を受けたら、誰しも「この人には何を言っても否定されるから、相談できないな」と思いますよね。会話の中に認めるべきところを見つけて、肯定する姿勢を大事にしています。

また、施術中の会話がいまいち盛り上がりすぎると感じたときには、一歩引いてみたりもします。そうすると、不思議とお客様のほうから話してくださることが多くて。実は、私も他人に自分のことを話すのが苦手なんです。だからこそ「自分だったらこうしてもらいたいな」と。これからもお客様の視線を忘れず、一生懸命お手伝いさせていただきます。私と一緒に、きれいになりましょう!



The Philosophy of Yumezukuri Tohoku

人生に『夢』づくり、ゆめ溢れる『人』づくり

Takako Fukushi